

2014/5/16

## 柏の景気情報（平成26年4月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 経営支援一課  
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18  
TEL : 04-7162-3305  
FAX : 04-7162-3323  
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>  
E-mail : [info@kashiwa-cci.or.jp](mailto:info@kashiwa-cci.or.jp)

## 柏の景気情報（平成26年4月分）

○ 調査期間 : 平成26年4月18日 ~ 4月25日

○ 調査対象 : 柏市内156事業所及び組合にヒアリング

### ＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	156	84	53.8%
建設	44	26	59.1%
製造	33	18	54.5%
卸・小売	43	28	65.1%
サービス	36	12	33.3%

○ 調査方法 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。  
と調査表

### 質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

### 質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1 \text{ 増加他の回答割合} - 3 \text{ 減少他の回答割合}$$

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成26年4月の調査結果のポイント】

《駆込み需要の反動で業況DIはやや悪化。先行き見通しも依然厳しく》

○4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲15.4(前月水準▲11.2)となり、マイナス幅が4.2ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、製造業11.1(同±0.0)である。マイナスからプラスに転じた業種は、サービス業8.3(同▲6.6)である。プラスからマイナスに転じた業種は、建設業▲15.3(同△4.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲42.8(同▲32.1)である。

【建設業】からは、「例年仕上げ業者は4月、5月の仕事は少ないが、これが消費税の影響か、例年と同じなのかわからない。また、リーマンショック以降、各業者の職人離れ、引退、廃業が進み、日常的な職人不足のため、常に工程が遅れてしまうことについて根本的な解決策は何も出来ていない。ただ手をこまねいて傍観するつもりはないが、何をどうすれば良いのかわからないのも事実である」(石れんがタイルブロック工事業)、「4月に入って工事の動きがパタッと止まった。先行き不安は当分続きそうだ」(電気工事業)、「消費税前の駆込み需要が一段落したためか、景況が悪化。しかし消費税増税にもかかわらず置替えをしたいというお客様もいらしゃるのでありがたい限りです」(内装工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「我々小企業では、設備投資において、まだまだ決断が鈍っている。消費税の関係で年内は静かに見ていたい感がある」(印刷業)、「メーカーが消費税増税に伴う消費者の購買意欲確認のため設備投資に対して慎重になっているという声がかかる。高齢者雇用安定法の改正により、定年退職者の雇用が義務付けられたため、子会社や関連会社が少ない中小企業においては、人件費の負担が大きくなっている」(その他の機械・同部品製造業)、などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「前年同月と比べてみて、消費税増税の影響はさほどなかったように思われます。しかし、近隣に同業種のお店が開店しました。その影響が今後懸念されます」(菓子・パン小売業)、「日米首脳会議においては、TPPの交渉がどのような方向で協議を進めていくのか、市場流通に携わる業界として産地との取引に影響していくのか、今後の推移を見守る状況にあります。春季の青果物は、現在順調な生育から出荷量もやや増加した取引となっています。また、ゴールデンウィークを迎えて活気が出る取り扱いとなるように、一層の集荷、販売に努力して、景気の向上を図りたいところです」(食料・飲料卸売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「同年の前月、前々月の動きは良くなかった。当月は歓迎会のご予約が前月より良くなっている。逆に、来月が不安なところもある。また、仕入れが上昇してるのが気になる」(酒場・ビヤホール)、「電気料等の管理費用の増加を肌で感じます。また、世間は増税傾向ですので納税準備の積立もしっかりしてコスト管理をこれまで以上にしっかりやる必要性を感じています」(不動産賃貸・管理業)などのコメントが寄せられた。

◎消費税増税

各業種から、「増税による買い控えを心配したが、第1週こそ大幅に昨対で落としたが、ジリジリ戻し、中旬には昨年並みになり、その後はかなり伸び、昨対増も最近にない位の伸率となった。しかし今後は全く予想がつかない」(婦人・子供服小売業)、「消費税増税後の価格転嫁が出来ず仕入れは課税され、今後も材料価格上昇の兆しあり。販売は増税後も変化は無いが、消耗品の買い控えが続くそう」(時計・眼鏡・光学機械小売業)、「4月1日に消費税が改正されたことから、一時、消費者の購買力が低下したことで取引の減少傾向にありましたが、徐々に生活のリズムが戻ったような感から平常取引で推移しています」(食料・飲料卸売業)などのコメントが寄せられた。

◎駆込み需要の反動

各業種から、「3月迄の忙しさが嘘のように仕事が無い。同業者、外注からの仕事の問い合わせが多く、どこも落ち込みがひどいようだ。当社も他社に回すほど受注は無く、今までにない冷え込みとなっている。全般的に落ち込んでいるようで、材料単価は高騰したままで、工事単価は下落している。あまりにも4月の落ち込みがひどく、今後の資金繰りが心配だ。新築、リフォームともに見積り依頼も少ない」(その他の職別工事業)、「消費税が8%になり、3月中に買い溜めも多少あり、今月は米や調味料、紙、洗剤等が大きく下降している。「全体的に無駄な商品は買い物しない」お客様が目立ちます」(その他の各種商品小売業)などのコメントが寄せられた。

◎仕入単価上昇

各業種から、「原価価格の高騰によりナフサの価格が上昇し、プラスチック製品の価格変更依頼が樹脂メーカーから多く寄せられている」(その他の機械・同部品製造業)、「消費税の増税にあわせて仕入価格の円安による価格上昇にともない利益の悪化。今までは何とか価格を据え置いていたが、ここにきて一斉値上げになった」(食肉小売業)などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
11月	▲14.9	△8.3	△6.6	▲45.4	▲6.6
12月	▲14.4	△13.6	±0.0	▲37.1	▲16.6
1月	▲2.2	△29.1	△22.2	▲40.6	±0.0
2月	▲17.6	▲16.6	±0.0	▲35.7	▲6.6
3月	▲11.2	△4.5	±0.0	▲32.1	▲6.6
4月	▲15.4	▲15.3	△11.1	▲42.8	△8.3
見通し	▲20.2	▲3.8	▲5.5	▲50.0	▲8.3

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成26年4月の業況についての状況】

○ 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲15.4(前月水準▲11.2)となり、マイナス幅が4.2ポイント拡大した。

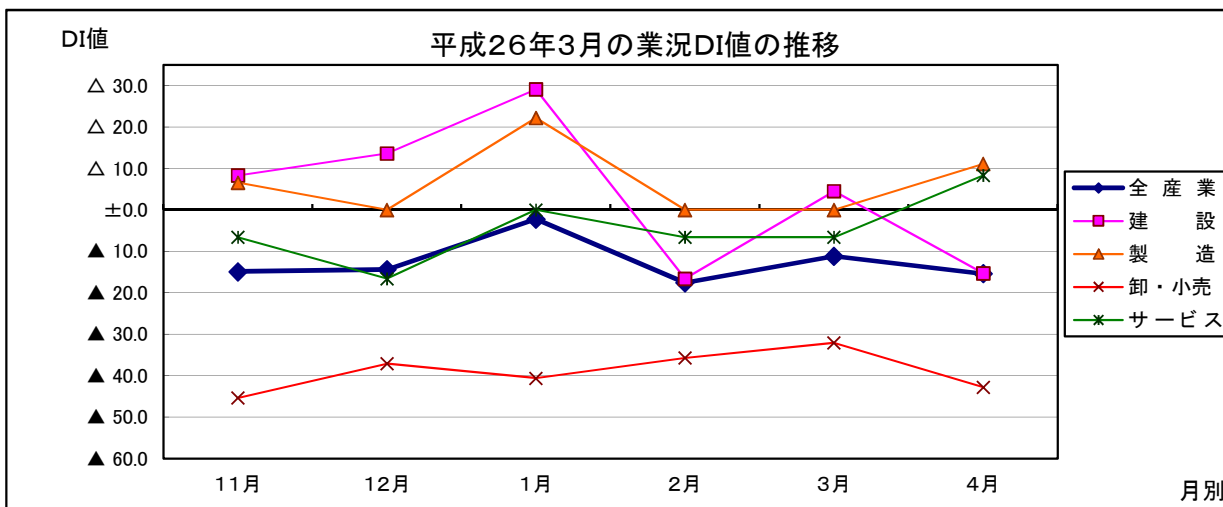
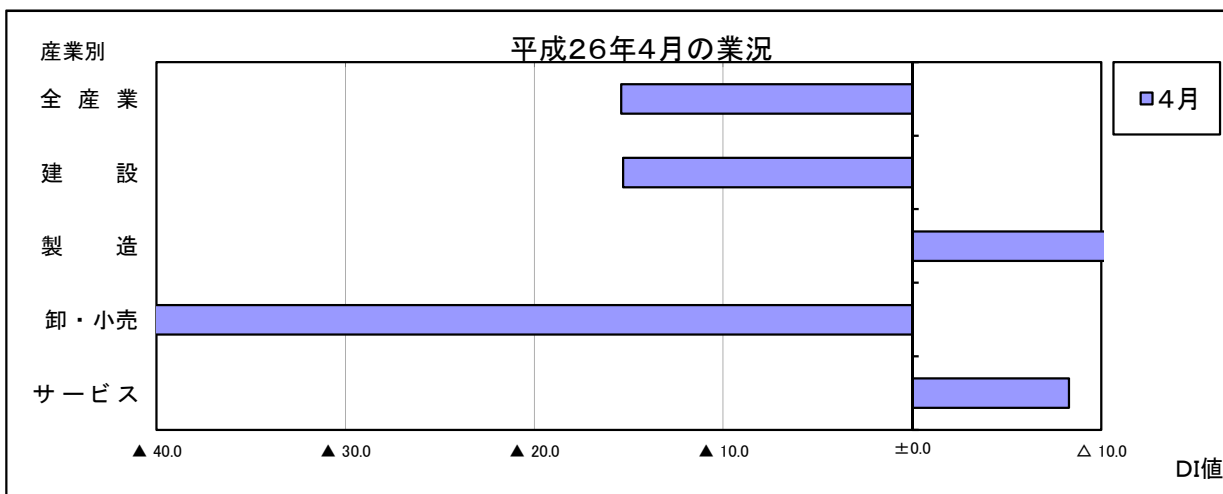
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、製造業11.1(同±0.0)である。マイナスからプラスに転じた業種は、サービス業8.3(同▲6.6)である。プラスからマイナスに転じた業種は、建設業▲15.3(同△4.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲42.8(同▲32.1)である。

○ 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲20.2(前月水準▲30.0)となり、マイナス幅が9.8ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲5.5(同▲33.3)、建設業▲3.8(同▲22.7)である。特に、製造業はマイナス幅が27.8ポイントと大幅に縮小する見通しである。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲50.0(同▲46.4)、サービス業▲8.3(同▲6.6)である。

平成26年4月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成25年 11月	12月	平成26年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5月~7月(4月~6月)
全産業	▲14.9	▲14.4	▲2.2	▲17.6	▲11.2	▲15.4	▲20.2(▲30.0)
建設	△8.3	△13.6	△29.1	▲16.6	△4.5	▲15.3	▲3.8(▲22.7)
製造	△6.6	±0.0	△22.2	±0.0	±0.0	△11.1	▲5.5(▲33.3)
卸・小売	▲45.4	▲37.1	▲40.6	▲35.7	▲32.1	▲42.8	▲50.0(▲46.4)
サービス	▲6.6	▲16.6	±0.0	▲6.6	▲6.6	△8.3	▲8.3(▲6.6)



【平成26年4月の売上についての状況】

○ 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲9.5(前月水準5.0)となり、マイナス方向へ14.5ポイント拡大した。

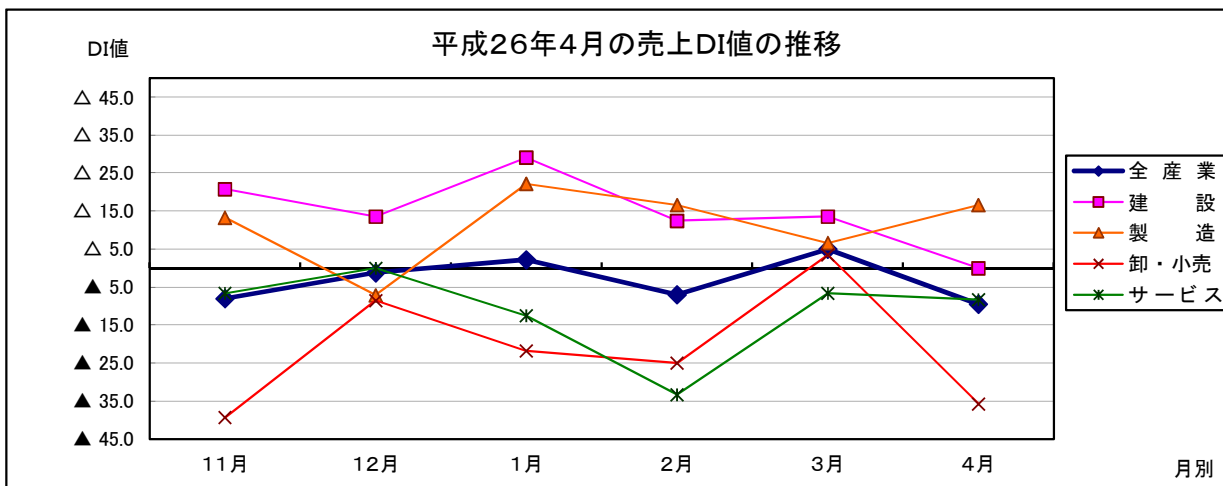
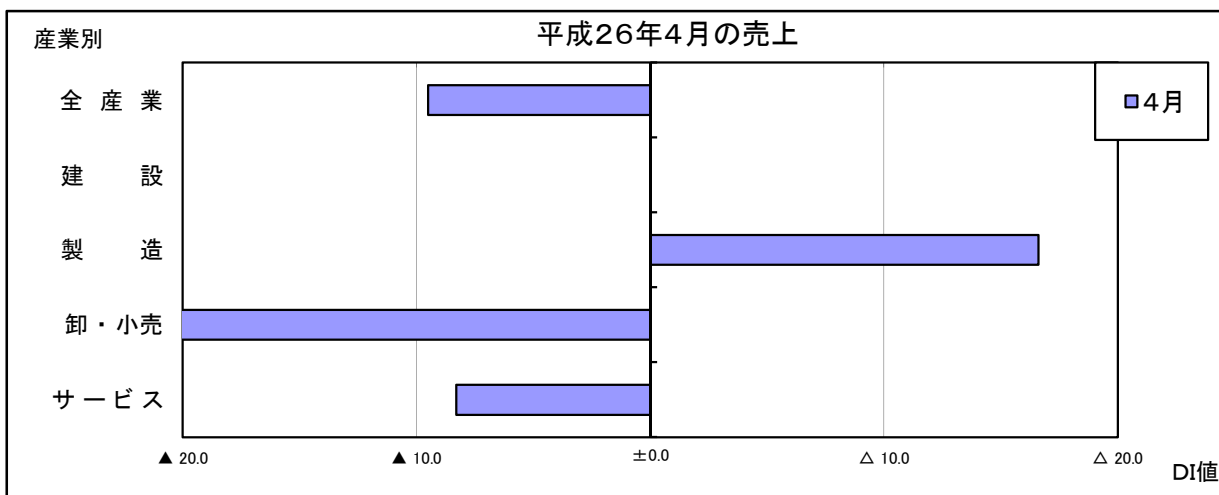
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、製造業16.6(同6.6)である。プラス幅が縮小した業種は、建設業±0.0(同13.6)である。プラスからマイナスに転じた業種は、卸小売業▲35.7(同3.5)であり、▲39.2ポイントと大幅に悪化した。マイナス幅が拡大した業種は、サービス業▲8.3(同▲6.6)である。

○ 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲14.2(前月水準▲22.5)となり、マイナス幅が8.3ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、サービス業8.3(同▲6.6)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲5.5(同▲46.6)、卸小売業▲39.2(同▲42.8)である。特に、製造業はマイナス幅が41.1ポイントと大幅に縮小する見通しである。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、建設業▲3.8(同△9.0)である。

平成26年4月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成25年 11月	12月	平成26年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5月~7月(4月~6月)
全産業	▲8.0	▲1.2	△2.2	▲7.0	△5.0	▲9.5	▲14.2(▲22.5)
建設	△20.8	△13.6	△29.1	△12.5	△13.6	±0.0	▲3.8(△9.0)
製造	△13.3	▲7.1	△22.2	△16.6	△6.6	△16.6	▲5.5(▲46.6)
卸・小売	▲39.3	▲8.5	▲21.8	▲25.0	△3.5	▲35.7	▲39.2(▲42.8)
サービス	▲6.6	±0.0	▲12.5	▲33.3	▲6.6	▲8.3	△8.3(▲6.6)



【平成26年4月の採算についての状況】

○ 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲26.1(前月水準▲8.7)となり、マイナス幅が17.4ポイント拡大した。

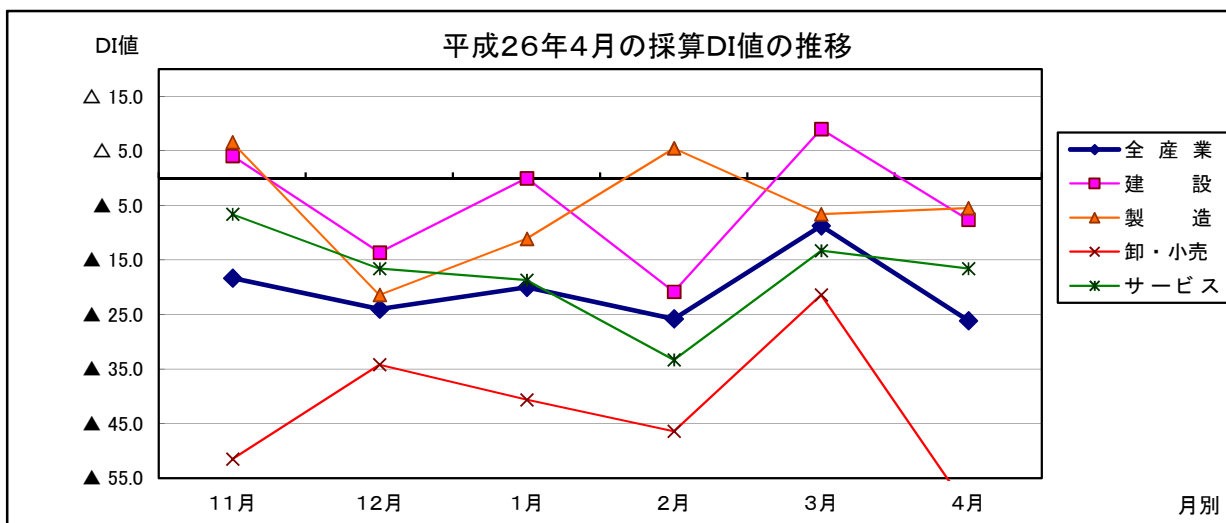
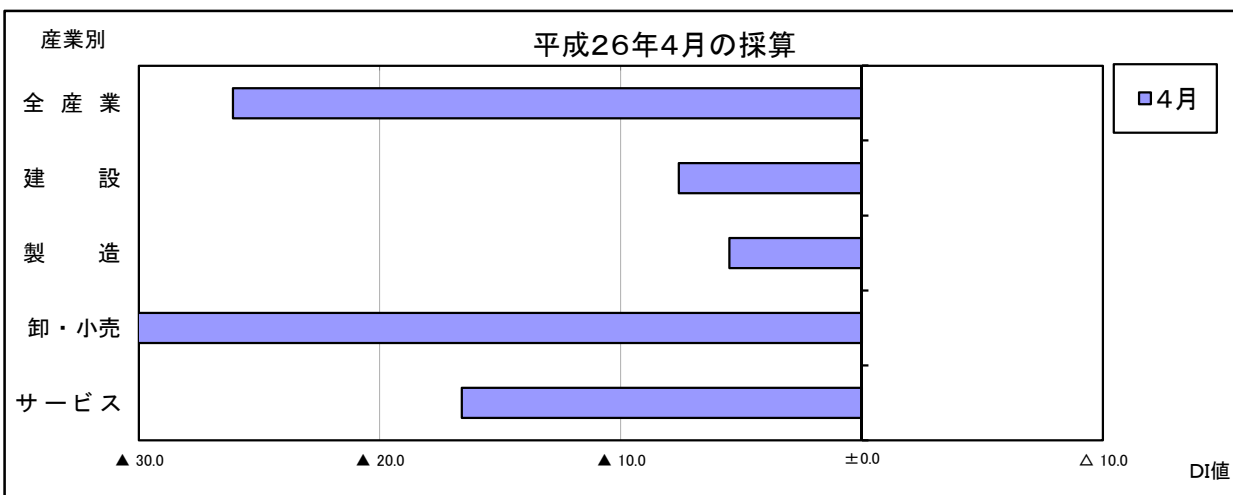
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲5.5(同▲6.6)である。プラスからマイナスに転じた業種は、建設業▲7.6(同9.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲60.7(同▲21.4)、サービス業▲16.6(同▲13.3)である。特に卸小売業は、マイナス幅が39.3ポイントと大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲27.3(前月水準▲33.7)となり、マイナス幅が6.4ポイント縮小する見通しである。

マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲5.5(同▲53.3)、サービス業±0.0(同▲13.3)である。特に、製造業はマイナス幅が47.8ポイントと大幅に縮小する見通しである。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲15.3(同▲4.5)、卸小売業▲64.2(同▲57.1)である。

平成26年4月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成25年 11月	12月	平成26年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5月~7月(4月~6月)
全産業	▲18.3	▲24.0	▲20.0	▲25.8	▲8.7	▲26.1	▲27.3(▲33.7)
建設	△4.1	▲13.6	±0.0	▲20.8	△9.0	▲7.6	▲15.3(▲4.5)
製造	△6.6	▲21.4	▲11.1	△5.5	▲6.6	▲5.5	▲5.5(▲53.3)
卸・小売	▲51.5	▲34.2	▲40.6	▲46.4	▲21.4	▲60.7	▲64.2(▲57.1)
サービス	▲6.6	▲16.6	▲18.7	▲33.3	▲13.3	▲16.6	±0.0(▲13.3)



【平成26年4月の仕入単価についての状況】

○ 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲60.7(前月水準▲45.0)となり、マイナス幅が15.7ポイント縮小した。

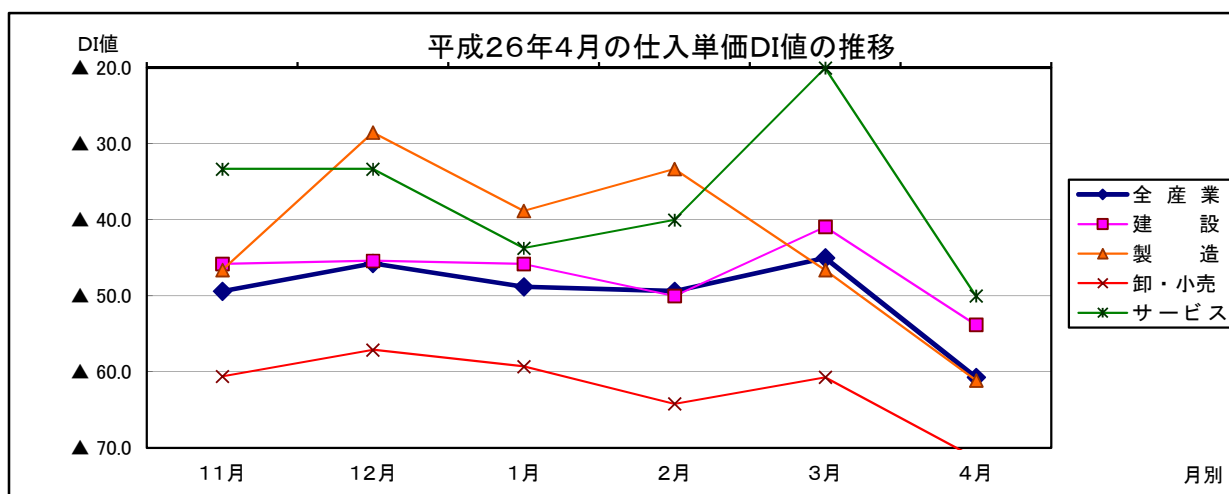
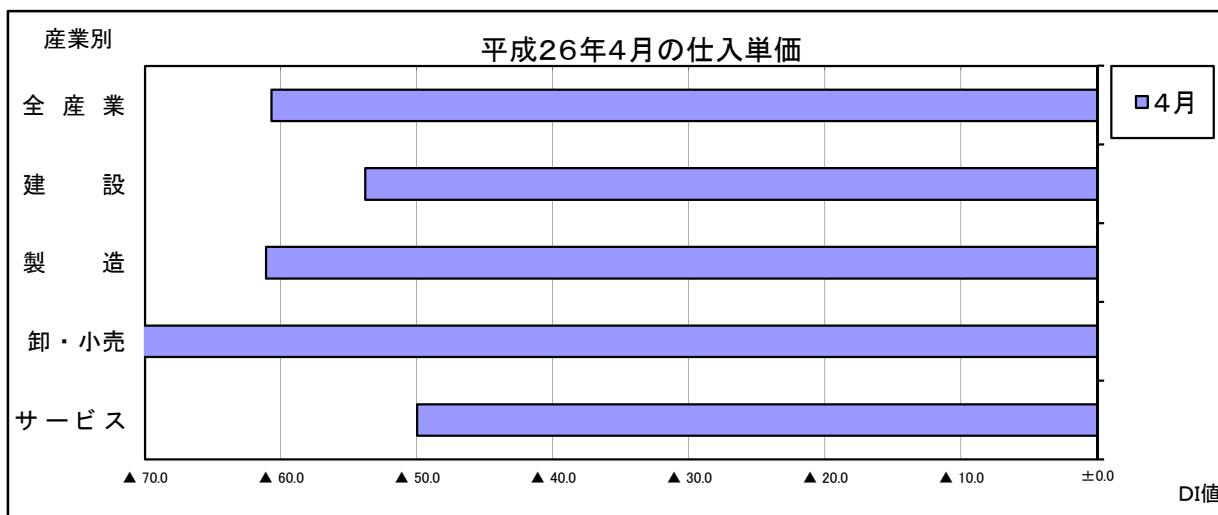
業種別では、全ての業種でマイナス幅が拡大しており、幅の大きい順に、サービス業▲50.0(同▲20.0)、製造業▲61.1(同▲46.6)、建設業▲53.8(同▲40.9)、卸小売業▲71.4(同▲60.7)である。特に、サービス業はマイナス幅が30.0ポイントと大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲44.0(前月水準▲55.0)となり、マイナス幅が11.0ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲42.3(同▲59.0)、製造業▲44.4(同▲60.0)、卸小売業▲46.4(同▲57.1)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業▲41.6(同▲40.0)である。

平成26年4月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成25年 11月	12月	平成26年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5月~7月(4月~6月)
全産業	▲49.4	▲45.7	▲48.8	▲49.4	▲45.0	▲60.7	▲44.0(▲55.0)
建設	▲45.8	▲45.4	▲45.8	▲50.0	▲40.9	▲53.8	▲42.3(▲59.0)
製造	▲46.6	▲28.5	▲38.8	▲33.3	▲46.6	▲61.1	▲44.4(▲60.0)
卸・小売	▲60.6	▲57.1	▲59.3	▲64.2	▲60.7	▲71.4	▲46.4(▲57.1)
サービス	▲33.3	▲33.3	▲43.7	▲40.0	▲20.0	▲50.0	▲41.6(▲40.0)



【平成26年4月の従業員についての状況】

○ 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、±0.0(前月水準3.7)となり、プラス幅が3.7ポイント縮小した。

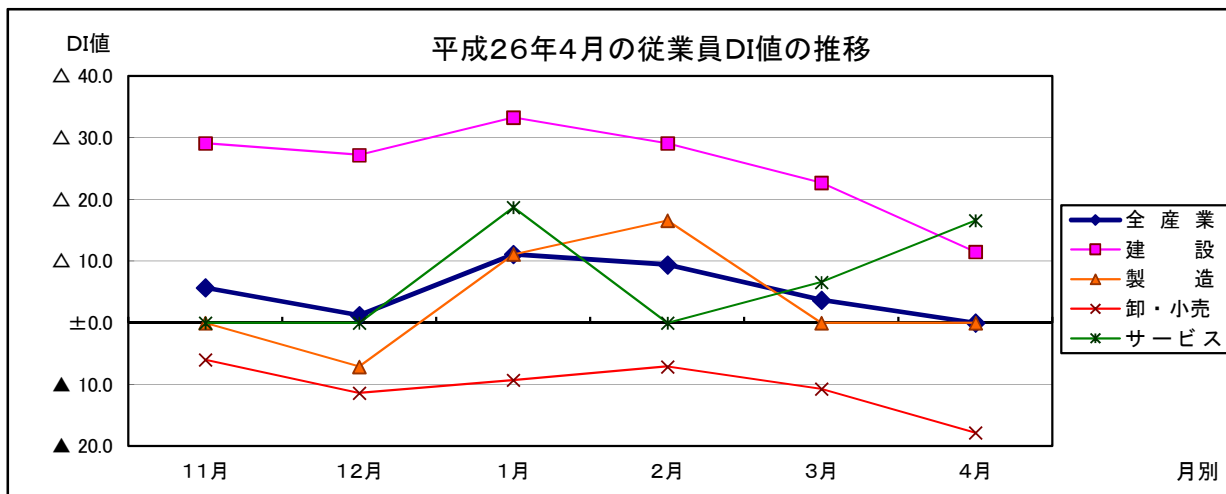
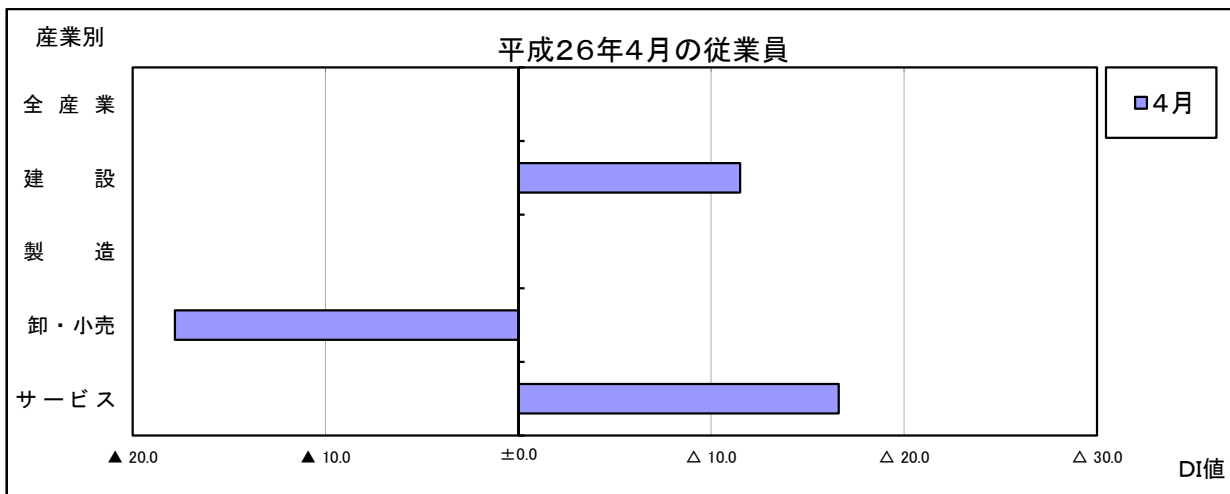
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、サービス業16.6(同6.6)である。変らない業種は、製造業±0.0(同±0.0)である。プラス幅が縮小した業種は、建設業11.5(同22.7)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲17.8(同▲10.7)である。

○ 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、3.5(前月水準6.2)となり、プラス幅が2.7ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業19.2(同27.2)、製造業±0.0(同6.6)、サービス業8.3(同13.3)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲10.7(同▲14.2)である。

平成26年4月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成25年 11月	12月	平成26年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5月~7月(4月~6月)
全産業	△ 5.7	△ 1.2	△ 11.1	△ 9.4	△ 3.7	±0.0	△ 3.5 ( △ 6.2 )
建設	△ 29.1	△ 27.2	△ 33.3	△ 29.1	△ 22.7	△ 11.5	△ 19.2 ( △ 27.2 )
製造	±0.0	▲ 7.1	△ 11.1	△ 16.6	±0.0	±0.0	±0.0 ( △ 6.6 )
卸・小売	▲ 6.0	▲ 11.4	▲ 9.3	▲ 7.1	▲ 10.7	▲ 17.8	▲ 10.7 ( ▲ 14.2 )
サービス	±0.0	±0.0	△ 18.7	±0.0	△ 6.6	△ 16.6	△ 8.3 ( △ 13.3 )





【平成26年4月の資金繰りについての状況】

○ 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲7. 1(前月水準▲6. 2)となり、マイナス幅が0. 9ポイント拡大した。

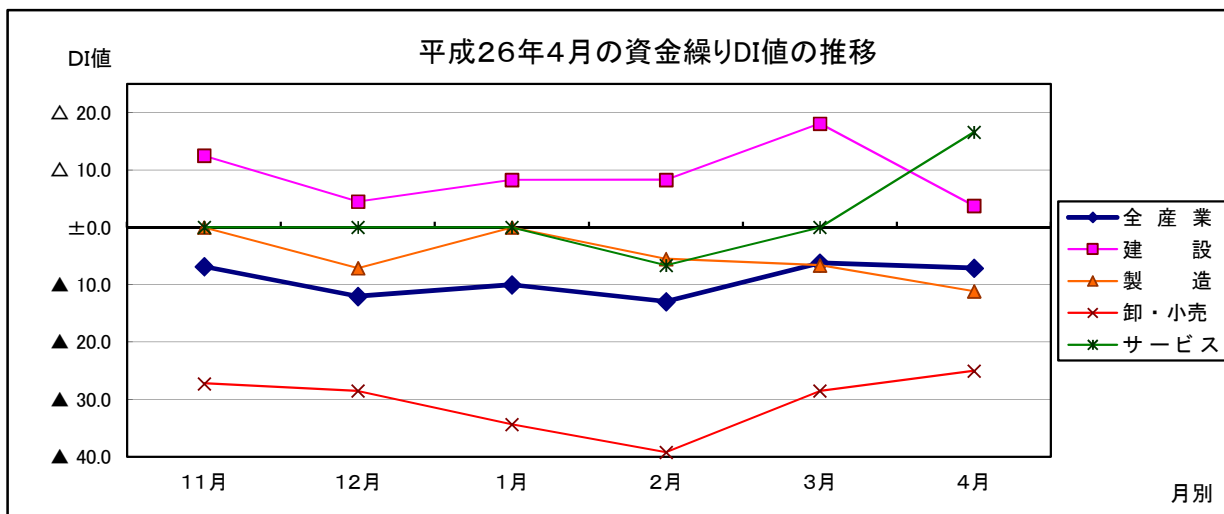
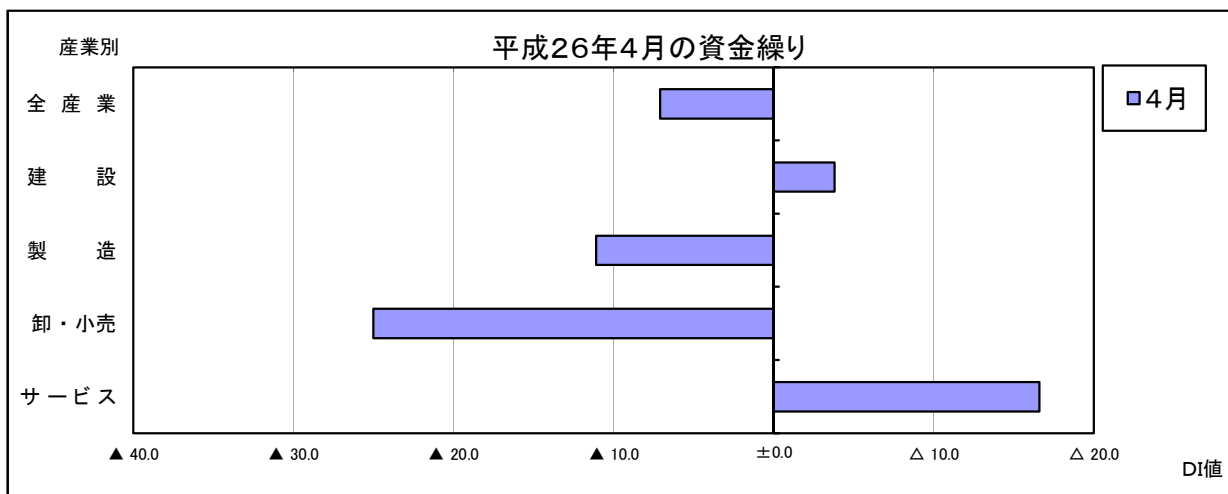
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、サービス業16. 6(同±0. 0)である。マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲25. 0(同▲28. 5)である。プラス幅が縮小した業種は、建設業3. 8(同18. 1)である。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲11. 1(同▲6. 6)で

○ 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲9. 5(前月水準▲16. 2)となり、マイナス幅が6. 7ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、建設業7. 6(同4. 5)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業±0. 0(同▲33. 3)、卸小売業▲32. 1(同▲35. 7)である。特に、製造業はマイナス幅が33. 3ポイントと大幅に縮小する見通しである。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、サービス業▲8. 3(同6. 6)である。

平成26年4月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成25年 11月	12月	平成26年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5月~7月(4月~6月)
全産業	▲6.8	▲12.0	▲10.0	▲12.9	▲6.2	▲7.1	▲9.5(▲16.2)
建設	△12.5	△4.5	△8.3	△8.3	△18.1	△3.8	△7.6(△4.5)
製造	±0.0	▲7.1	±0.0	▲5.5	▲6.6	▲11.1	±0.0(▲33.3)
卸・小売	▲27.2	▲28.5	▲34.3	▲39.2	▲28.5	▲25.0	▲32.1(▲35.7)
サービス	±0.0	±0.0	±0.0	▲6.6	±0.0	△16.6	▲8.3(△6.6)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 9.5	▲ 14.2	▲ 26.1	▲ 27.3	▲ 60.7	▲ 44.0	±0.0	△ 3.5
建設	±0.0	▲ 3.8	▲ 7.6	▲ 15.3	▲ 53.8	▲ 42.3	△ 11.5	△ 19.2
製造	△ 16.6	▲ 5.5	▲ 5.5	▲ 5.5	▲ 61.1	▲ 44.4	±0.0	±0.0
卸・小売	▲ 35.7	▲ 39.2	▲ 60.7	▲ 64.2	▲ 71.4	▲ 46.4	▲ 17.8	▲ 10.7
サービス	▲ 8.3	△ 8.3	▲ 16.6	±0.0	▲ 50.0	▲ 41.6	△ 16.6	△ 8.3

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 15.4	▲ 20.2	▲ 7.1	▲ 9.5
建設	▲ 15.3	▲ 3.8	△ 3.8	△ 7.6
製造	△ 11.1	▲ 5.5	▲ 11.1	±0.0
卸・小売	▲ 42.8	▲ 50.0	▲ 25.0	▲ 32.1
サービス	△ 8.3	▲ 8.3	△ 16.6	▲ 8.3

【平成26年4月の業種別業界内トピックス】

業種別	概況	キーワード	業種
建設	例年仕上げ業者は4月、5月の仕事は少ないが、これが消費税の影響か、例年と同じなのかはわからない。また、リーマンショック以降、各業者の職人離れ、引退、廃業が進み、日常的な職人不足のため、常に工程が遅れてしまうことについて根本的な解決策は何も出ていない。ただ手をこまねいて傍観するつもりはないが、何をどうすれば良いのかわからないのも事実である。	消費税増税 人手不足 工事遅れ	石工れんがタイルブロック工事業
	消費税前の駆込み需要が一段落したためか、景況が悪化。しかし消費税増税にもかかわらず畳替えをしたいというお客様もいらっしゃるのでありがたい限りです。	駆込み需要の反動 景況悪化	内装工事業
	3月の残工事で4月は良い。5月以降もそこそこ行けそう。	業績好調	その他の職別工事業
	4月に入って工事の動きがパタッと止まった。先行き不安は当分続きそうだ。	駆込需要の反動 先行き不安	電気工事業
	3月迄の忙しさが嘘のように仕事が無い。同業者、外注からの仕事の問い合わせが多く、どこも落ち込みがひどいようだ。当社も他社に回すほど受注は無く、今までにない冷え込みとなっている。一般的に落ち込んでいるようで、材料単価は高騰したままで、工事単価は下落している。あまりにも4月の落ち込みがひどく、今後の資金繰りが心配だ。新築、リフォームともに見積り依頼も少ない。	駆込み需要の反動 仕入単価上昇 工事単価下落	その他の職別工事業
製造業	我々小企業では、設備投資において、まだまだ決断が鈍っている。消費税の関係で年内は静かに見ていたい感がある。	設備投資	印刷業
	メーカーが消費税増税に伴う消費者の購買意欲確認のため設備投資に対して慎重になっているという声が聞かれる。原価価格の高騰によりナフサの価格が上昇し、プラスチック製品の価格変更依頼が樹脂メーカーから多く寄せられている。高齢者雇用安定法の改正により、定年退職者の雇用が義務付けられたため、子会社や関連会社が少ない中小企業においては、人件費の負担が大きくなっている。	設備投資 仕入単価上昇 価格変更 高齢者雇用安定法 人件費負担増	その他の機械・同部品製造業
	消費税増税前の仮需の裏返しで売上げは若干減少が予測される。	駆込み需要の反動	酒類製造業
	当面雇用に関しては現状維持を考えている。賃上げについては、現段階では不明である。	雇用の現状維持 賃上げ	一般産業用機械・装置製造業
	3月迄の忙しさとは打って変わって4月に入ると一遍に暇になる。消費税3%アップの影響を痛感している。	駆込み需要の反動	紙製容器製造業
	消費税が8%になり、3月中に買い溜めも多少あり、今月は米や調味料、紙、洗剤等が大きく下降している。「全体的に無駄な商品は買い物しない」お客様が目立ちます。	消費税増税 駆込み需要の反動	その他の各種商品小売業
	消費税の増税にあわせて仕入価格の円安による価格上昇にともない、利益の悪化。今までは何とか価格を据え置いていたが、ここにきて一斉値上げになった。	円安 仕入単価上昇 商品値上げ	食肉小売業
	前年同月と比べてみて、消費税増税の影響はさほどなかったように思われます。しかし、近隣に同業種のお店が開店しました。その影響が今後懸念されます。	消費税増税 競合店	菓子・パン小売業
	増税による買い控えを心配したが、第1週こそ大幅に昨対で落としたが、ジリジリ戻し、中旬には昨年並みになり、その後はかなり伸び、昨対増も最近にない位の伸率となった。しかし今後は全く予想がつかない。	消費税増税 業績好調 先行不透明	婦人・子供服小売業

【平成26年4月の業種別業界内トピックス】

卸小売	時計・宝飾品などの高額品および化粧品といった増税特需の恩恵を受けた商材は反動で苦戦。また、婦人衣料は特需効果が無かったにも関わらず今も苦戦。但し、価格メリットを訴求した催事や食品催事については影響は少ない。	駆け込み需要の反動 衣料品苦戦	百貨店
	消費税増税後の価格転嫁が出来ず仕入れは課税され、今後も材料価格上昇の兆しあり。販売は増税後も変化は無いが、消耗品の買い控えが続きそう。	消費税増税 価格転嫁 仕入単価上昇 消耗品買い控え	時計・眼鏡・光学機械小売業
	4月1日に消費税が改正されたことから、一時、消費者の購買力が低下したことで取引の減少傾向にありましたが、徐々に生活のリズムが戻ったような感から平常取引で推移しています。また、日米首脳会議においては、TPPの交渉がどのような方向で協議を進めていくのか、市場流通に携わる業界として産地との取引に影響していくのか、今後の推移を見守る状況にあります。春季の青果物は、現在順調な生育から出荷量もやや増加した取引となっています。また、ゴールデンウィークを迎えて活気が出る取り扱いとなるように、一層の集荷、販売に努力して、景気の向上を図りたいところです。	消費税増税 購買力低下 取引減少 TPP ゴールデンウィーク	食料・飲料卸売業
サービス	同年の前月、前々月の動きは良くなかった。当月は歓迎会のご予約が前月より良くなっている。逆に、来月が不安なところもある。また、仕入れが上昇してるのが気になる。	仕入単価上昇 歓迎会 先行き不安	酒場・ビヤホール
	消費税が8%になったことで、お客様から駐車場代の端数切捨ての話が出ることもある。	消費税増税	不動産賃貸業
	個人旅行はGWの日並びが悪く海外旅行減少。法人旅行は3月決算企業の業績確定を受けて、各種旅行計画が活発化している。	ゴールデンウィーク 海外旅行	旅行業
	電気料等の管理費用の増加を肌で感じます。また、世間は増税傾向ですので納税準備の積立もしっかりしてコスト管理をこれまで以上にしっかりやる必要性を感じています。	電気代増加 コスト管理	不動産賃貸・管理業
	お客様からの問い合わせは多いですが、成約までには時間が掛かって慎重になっています。相変わらず建築費は高騰しています。	仕入単価上昇	不動産管理業

### ◎消費増税

- ・ 増税による買い控えを心配したが、第1週こそ大幅に昨対で落としたが、ギリギリ戻し、中旬には昨年並みになり、その後はかなり伸び、昨対増も最近にない位の伸率となった。しかし今後は全く予想がつかない。 婦人・子供服小売業
- ・ 消費増税後の価格転嫁が出来ず仕入れは課税され、今後も材料価格上昇の兆しあり。販売は増税後も変化は無いが、消耗品の買い控えが続くそう。 時計・眼鏡・光学機械小売業
- ・ 4月1日に消費増税が改正されたことから、一時、消費者の購買力が低下したことで取引の減少傾向にありましたが、徐々に生活のリズムが戻ったような感から平常取引で推移しています。 食料・飲料卸売業

### ◎駆け込み需要の反動

- ・ 3月迄の忙しさが嘘のように仕事が無い。同業者、外注からの仕事の問い合わせが多く、どこも落ち込みがひどいようだ。当社も他社に回すほど受注は無く、今までにない冷え込みとなっている。全般的に落ち込んでいるようで、材料単価は高騰したままで、工事単価は下落している。あまりにも4月の落ち込みがひどく、今後の資金繰りが心配だ。新築、リフォームともに見積り依頼も少ない。 その他の職別工事業
- ・ 消費増税が8%になり、3月中に買い溜めも多少あり、今月は米や調味料、紙、洗剤等が大きく下降している。「全体的に無駄な商品は買い物しない」お客様が目立ちます。 その他の各種商品小売業

### ◎仕入単価上昇

- ・ 原価価格の高騰によりナフサの価格が上昇し、プラスチック製品の価格変更依頼が樹脂メーカーから多く寄せられている。 その他の機械・同部品製造業
- ・ 消費増税にあわせて仕入価格の円安による価格上昇にともない、利益の悪化。今までは何とか価格を据え置いていたが、ここにきて一斉値上げになった。 食肉小売業
- ・ お客様からの問い合わせは多いですが、成約までには時間が掛かって慎重になっています。相変わらず建築費は高騰しています。 不動産管理業











## 平成26年4月CCI - LOBOとの比較











- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲15.4に対し、「CCI-LOBO」が▲14.1で柏の方がマイナス幅が1.3ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は製造業、サービス業で、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は建設業、卸小売業で、建設業は10ポイント以上悪い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲9.5に対し、「CCI-LOBO」が▲5.3で柏の方がマイナス幅が4.2ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は製造業である。「柏の景気」の方が悪い業種は建設業、卸小売業、サービス業で、建設業では10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲26.1に対し、「CCI-LOBO」が▲17.6で柏の方がマイナス幅が8.5ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は建設業、製造業、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業で、10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲60.7に対し、「CCI-LOBO」が▲54.8で、柏の方がマイナス幅が5.9ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は建設業、サービス業で、建設業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業、卸小売業で、卸小売業では10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が±0.0に対し、「CCI-LOBO」が11.7で柏の方がプラス幅が11.7ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種はサービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は建設業、製造業、卸小売業で、建設業、卸小売業では10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲7.1に対し、「CCI-LOBO」が▲10.1で柏の方がマイナス幅が3.0ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は建設業、サービス業で、サービス業では10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業、卸小売業である。











# 平成26年4月の木の景気天気図











木の景気情報と全国CCI-LOBOとの比較











景気天気図					
	特に好調 DI $\geq$ 50	好調 50>DI $\geq$ 25	まあまあ 25>DI $\geq$ 0	不振 0>DI $\geq$ ▲25	極めて不振 ▲25>DI











業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 15.4	 ▲ 15.3	 △ 11.1	 ▲ 42.8	 △ 8.3
CCI-LOBO	 ▲ 14.1	 △ 5.9	 ±0.0	 ▲ 38.2	 ▲ 14.7

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 9.5	 ±0.0	 △ 16.6	 ▲ 35.7	 ▲ 8.3
CCI-LOBO	 ▲ 5.3	 △ 16.7	 △ 8.8	 ▲ 32.6	 ▲ 3.5

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 26.1	 ▲ 7.6	 ▲ 5.5	 ▲ 60.7	 ▲ 16.6
CCI-LOBO	 ▲ 17.6	 ▲ 9.6	 ▲ 6.7	 ▲ 35.8	 ▲ 16.8

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 60.7	 ▲ 53.8	 ▲ 61.1	 ▲ 71.4	 ▲ 50.0
CCI-LOBO	 ▲ 54.8	 ▲ 71.3	 ▲ 55.5	 ▲ 46.5	 ▲ 52.7

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ±0.0	 △ 11.5	 ±0.0	 ▲ 17.8	 △ 16.6
CCI-LOBO	 △ 11.7	 △ 24.3	 △ 5.9	 △ 9.0	 △ 16.4

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 7.1	 △ 3.8	 ▲ 11.1	 ▲ 25.0	 △ 16.6
CCI-LOBO	 ▲ 10.1	 ▲ 4.8	 ▲ 4.8	 ▲ 20.1	 ▲ 12.4

  は「木の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

  は「木の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

# CCI - LOBO

## 商工会議所早期景気観測 (4月速報)

調査期間：平成26年4月15日～21日

調査対象：全国の422商工会議所が3134業種組合等にヒアリング調査を実施

**全国の業況**  
業況DIは、駆け込み需要の反動から大幅悪化。先行きも不透明感が強大

4月の全産業合計の業況DIは、▲14.1と、前月から▲9.7ポイントの大幅悪化。仕入コストや電力料金、人件費などの負担増が続く中で、消費税引き上げに伴う駆け込み需要の反動減により、小売業や卸売業では売上が大きく落ち込んだ。他方で、建設業や輸出が好調な自動車、飲食・宿泊業などは、足元では受注・売上が堅調に推移しており、業種によって消費税引き上げによる影響にばらつきがみられる。

先行きについては、先行き見通しDIが▲28.4（今月比▲14.3ポイント）と、大幅な悪化を見込む。自動車や観光関連など、堅調な業種がみられる一方、仕入コストや電力料金、人件費などの負担増加分の価格転嫁が進んでいないほか、受注減少や消費者のマインド低迷の長期化、取引先からのコストダウン要請の強まりなどへの懸念もあり、先行きに対して慎重な見方が続く。

○各業種から寄せられた

特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「公共工事は堅調なもの、依然として自治体が設定した価格が実態に合っていない、入札できない案件も多い」（一般工事業）、「4月に入り、駆け込み需要の反動からリフォーム案件が激減した」（一般工事業）、「公共工事が増加しているほか、大手企業から自家発電設備関連の受注が見込まれ、業績は堅調に推移」（建築工事業）

【製造業】「駆け込み需要の反動により売上が3割減少。今後は、オーダーメイドなど利益率の高い商品を強化し、収益改善を図る」（家具製造業）、「自動車関連の受注は好調なもの、それ以外の一般工作機械が苦戦している」（自動車部品・工作機械製造業）、「住宅関連の引き合いが堅調。工期遅れなどの影響もあり、7月頃まで受注が続く見込み」（建具製造業）

【卸売業】「茶葉などの売上が伸びた3月に比べ、4月は大きく落ち込んだ」（飲料品卸売業）、「バルブやコックなどの仕入価格が上昇しているが、取引先からの値下げ

要求が強まっており、転嫁は困難」（建築材料卸売業）、「夏日となる日が増え、帽子などに動きがはじめています。5月以降の受注増に期待したい」（服飾品卸売業）

【小売業】「反動減の影響がみられたが、食料品は例年並みに戻りつつある。他方、衣料品や雑貨は低調」（百貨店）、「駆け込み需要の反動から来店客数、売上とも減少。当面は厳しい状況だが、夏頃には持ち直す見込み」（化粧品販売店）、「電球などの消耗品の売上に変化はないが、大型家電が落ち込んだ」（家電販売店）

【サービス業】「受注はあるが、燃料費の上昇に加え、高速料金の割引縮小・廃止等により、収益が圧迫されている」（運送業）、「消費控えを予想していたが、歓送迎会などの利用が伸びており、売上の影響はみられなかった」（飲食店）、「消費税引き上げ分を転嫁したが、特に影響はみられず、稼働率は良好」（旅館業）

全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
11月	▲12.8	14.6	▲11.1	▲16.2	▲26.8	▲18.8
12月	▲7.4	14	▲2.4	▲10.6	▲24.2	▲9.1
1月	▲3.1	18.4	1.9	▲9.1	▲14.3	▲10.4
2月	▲7.7	12.7	0.3	▲15.3	▲16.8	▲16.8
3月	▲4.4	11.0	0.6	▲5.7	▲6.3	▲17.3
4月	▲14.1	5.9	±0.0	▲20.9	▲38.2	▲14.7
見通し	▲28.4	▲12.1	▲25.3	▲27.1	▲49.3	▲22.6

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI